



The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 17 | Issue 2 | December 2013

➡ In this issue...

- ▶ KISTival 2013...p. 3, 4
- ▶ 発達心理学にフォーカス...p. 6
- ▶ 東京ホコースセンターの理事が訪問...p. 8
- ▶ G9とG10のサイエンス...p. 10
- ▶ LEAPについて...p. 11
- ▶ いじめの防止と早期発見...p. 12
- ▶ 日本語小論文コンテスト入賞...p. 16
- ▶ ミッドスクールドラマフェスティバル...p. 17
- ▶ 言語の役割...p. 17
- ▶ PTAニュース...p. 18
- ▶ クロスカントリー...p. 20
- ▶ ボランティア精神...p. 21

「行動を起こす事は全ての成功への根本的な鍵となる。」

—Pablo Picasso

学校長より.....

2013年も残すところ後1カ月で終わろうとしています。今年もスクールコミュニティの皆様から多大なるサポートを頂き、感謝の気持ちで一杯です。皆様のサポートなしには、「文化的社会的に多様な背景をもった意欲的な子どもたちに、安全で人をはぐくむ環境の中で、質の高い教育を提供し、国際社会に貢献する、人格的に秀でた有能な若者を育成することである。」という学校のミッションを達成することはできません。

まず、皆様からの多大なご協力を得て、ニューイヤーパーティー、インターナショナルマザーランゲージデー、キスティバル、クロスカントリーなど、様々な学校行事も無事終了しました。ご協力頂いたスクールコミュニティの皆様へ、再度お礼を申し上げます。どうも有難うございました。

また、1月に行われるニューイヤーパーティーにおいて、G3のTomokoちゃんのご両親、Mr & Mrs Sakamotoのご厚意により、毎年たくさんの力士が来校し相撲や餅つきにご協力頂いており、生徒やスタッフは、得難い貴重な経験をさせて頂いております。

そして、K2のAmiちゃんのお父様Dr Kobayashiから酸素飽和度測定器を寄付して頂きました。また、Dr Kobayashiは、昨年に引き続き毎週木曜日にボランティアでスクールドクターとして学校で、診察をしてくださる他、生徒の健康診断等もお引き受け頂いています。木曜日以外でも、スクール看護婦のMrs ウイッテカーの相談役に快く引き受けてくださるなど、多くの先生や生徒を助けて頂いています。

同じくG1のMikiちゃん、K2のRumiちゃんのお母様Dr Kawamuraにも、生徒の健康診断にご協力頂きました。

G1のKirin、G4のTatsunoriのご両親、Mr & Mrs Onoには、幼児用プレイグラウンドにおいて、大型台風により倒れた木の撤去作業を申し出て頂きました。迅速に対応頂いたことにより、授業に支障をきたすこともなく、安全が確保されました。

K2のJaeのご両親、Mr & Mrs Leeには、緊急時やイベントに必要な高性能トランシーバー4台を寄付して頂きました。

紙面をお借りして、皆様にお伝えするとともに、学校コミュニティを代表し改めてお礼を申し上げます。

次のページに続く

DATES TO REMEMBER



December 2013

14-Jan 6 Winter vacation
16-17 Office open

January 2014

6 Staff development day (No school for students)
7 (W) School resumes for all students
10 2014-2015 enrollment applications close
11 (G9-G12) MUN scrimmage (@KIST)
13 School day
13 (G1-G12) Clubs program resumes
20-22 (G9-G11) Semester 1 examinations
23 Semester 2 commences
24 (G10) IB DP information evening 2014-2016 (*Date changed!)
29 Japanese new year party
31 (K1-K3) School holiday (Enrollment interviews)

February 2014

11 School holiday
12-19 (G12) DP mock examinations
12 Semester 1 reports issued
12 (G6-G8) Brain Bowl (@BST)



KIST is an
IB World
School

前ページの続き

最後になりますが、ベークセールによるPTAからの資金援助(90,279円)を受け、学校は1月17日に行われるG10の「DP説明会」に向け、同時通訳機40台(802,439円)の発注を行いました。取り組みに対する皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

今まで、必要な場合、英・日の逐次通訳で行っていましたが、時間が倍かかり集中力が続かない、また途切れ途切れで話を聞くため英語と日本語のどちらの説明も分かりづらくなるなど、生徒にとって重要なインフォメーションを聞き逃す、間違えるなどの多くの問題を抱えていましたが、その問題に対処するため、今後に予定されていますG10のDP説明会、G5のエキヒビジョン説明会、IBセッション、大学進学説明会等において、同時通訳機を使用し日本語と英語をカバーするよう準備を進めています。

KISTは、様々な文化の背景を持つ生徒を受け入れることをミッションに掲げています。母国語がKISTの教育言語の英語でない生徒も多く在籍しますが、彼らは熱心に勉強に

取り組み、多くはDPで成功を収め世界中の一流大学へ進学しています。同時通訳機の導入が、さらに生徒の学習や進学のサポートに役立つことを期待しています。

それでは、よいお年を。

Yoshishige Komaki
School Director/Head of School



新入スタッフ紹介

前回の *The Comet* が発行されてから、新たにスタッフが仲間入りしました。スクールコミュニティを代表して皆様のご活躍を祈り、共に楽しい時間を過ごせることを願っています。



Mignonette Castro
Teacher's Aide
K3, G1



Emmeline Ettema
Teacher's Assistant
K1



William Miller
MYP English /
Humanities



Ching-Hui Wang
ELS Instructor
G1B



Phillip Young
ELS Instructor
G6-G10

創立者奨学金



Jiaying (G10A)
Bronze Award



Sara (G10A)
Bronze Award

9月号の *The Comet* では、創立者奨学金プログラムの一貫である **KIST University Support Scholarship** (大学支援奨学金) を受賞した生徒を紹介させていただきました。

今回は2013-2014年度の **KIST Study Scholarship** (就学奨学金) の受賞者を発表させていただきます。この奨学金は愛校心を持って、当校の教育理念と方針に則り、学校に多大な貢献をした生徒に贈呈されます。

この場をお借りして奨学金を受賞した二名の生徒を祝福したいと思います。おめでとうございます。



KISTival 2013

まずは皆様大変お疲れ様でした。延期および11月開催という初めての挑戦の中、皆様方のお蔭様を待ちまして、無事成功裏の内にスクール最大のイベントを終わらせることができました。

毎年の最大の懸念事項であるお天気、売上にも大きく影響するため毎年週間天気予報に一喜一憂していますが、今年はとうとう恐れていた台風直撃という最悪の事態が私達を襲いました。17年間の中で初めての経験であり、準備を一生懸命進めてくださっている保護者の皆様の状況を知っているがゆえに、延期という決断は、最後の最後、ぎりぎりまで悩みました。結果として正当な判断とはなりませんが、決断前も決断後も何日も迷い悩み続けました。開校以来初めての事態に不安で一杯だった私達でしたが、急な連絡にもかかわらず、全てのクラスから迅速かつ柔軟なご対応を頂くことができ無事延期することができました。また、保護者および生徒の皆さんにおかれましても、皆様それぞれお知り合いやお友達等、KISTivalへお誘いして下さった方々へのご連絡等、大変だったと思います。ご理解ご協力ありがとうございました。

このように、KISTivalは全保護者・生徒・スタッフ、KISTコミュニティの全員の協力無くしては絶対に成功できません。延期という初めての経験を通じて改めてそれを実感しました。

中でもKISTival Leaderを引き受けてくださいました皆様は、困難や問題を解決し学年を取りまとめ、目標を達成してくださいました。Leaderの皆様は、様々なIBの学習者像を実際にご自身のお子さんは勿論、他の生徒や保護者に対して示してくださいました。心から感謝とお礼を申し上げます。本当にお疲れ様でした。

また今年はG11による学習展示と発表、G9による科学体験コーナー、G7によるタピオカドリンク等、セカンダリースクールの生徒運営によるクラスブースにも様々な新しい風が吹きました。

来年更なる向上を目指すため、KISTivalへのリフレクションを皆様から広く募集いたします。お気づきになった点、良かった点、改善すべき点など、建設的なご意見をお待ちしております。右記メールにお願いします。

sayoko.naito@kist.ed.jp

KISTivalにバザーやゲーム、各学年ブース等への様々なご寄付を頂きましたこと、心から感謝いたします。

また、ラッフル景品や広告へのご寄付を頂きました、K2 Kobayashi family、G7 Jimbo family、G7 Ishikawa family、K1 Abe family、G5 Tahara family、G4/G1 Williams family、K3 Koike family、G1 Nakamura family、G4 Yamano family、G5 Kuroyanagi family、G5 Ishihara family、G11/G6 Molligoda family、G5 Meguro



family、G1 Hiramoto family、K3 Yoshida family、G10 Steiner family、G4 Virgilio family、K2 Oh family、G4/G1 Ono family、G3 Sakamoto family、G7 Collins family、G2/G1 Tamaki family、G1 Okamoto family、Class of 2013 Brova family、Staff Naito family、スクールバス駐車場をご提供くださいましたG3/K2 Minoura family、ステージをプロのダンスで華やかにしてくださったG8 Kalima family、皆様のサポートに心から感謝申し上げます。

最後に、特別ゲストとして快くご出演くださいました神保美貴さんに心から感謝申し上げます。神保さんのラジオ番組の様子を知ることができた興味深い内容でした。

KISTival実行スタッフを代表して
Sayoko Naito
Director of Operations



KISTival 2013

総収入:	¥6,876,640
総経費:	¥1,726,567
収益:	¥5,150,073

(* 未入金 Contribution 220,000 円を含む)

・総収入には事前・当日チケット売上・入場料・寄付金・協賛広告代が含まれます。

・総経費にはフード・各ブースの経費・チケット/広告印刷代・印刷物の送料代・ゴミ処理代・ラック/量品購入代・ドレッシング経費・会場設置資材代が含まれます。

*各ブースの売上は、入会済の Contribution を含みます。別途 220,000 円の未収金がございます。

各ブース売上詳細		売上 Total	経費	純利益	
Parent booths	K3 Beer/Wine/Soft drinks	¥454,442	¥0	¥454,442	
	G1 Face painting	¥96,810	¥0	¥96,810	
	G2 American food	¥280,536	¥0	¥280,536	
	G3 Japanese food	¥345,900	¥0	¥345,900	
	G4 Bazaar	¥952,037	¥7,020	¥945,017	
	G6 Air slider	¥531,750	¥213,300	¥318,450	
	* 経費として Air slider rental 代と Free ride バンド代を含み、売上に Free ride ticket 販売分を含みます				
	G7 Chinese & Korean food	¥356,352	¥0	¥356,352	
	G8 Hawaiian BBQ & Tattoos	¥356,445	¥131,049	¥225,396	
	G9 Indian food	¥204,864	¥0	¥204,864	
	G10 Mexican food	¥135,028	¥200	¥134,828	
	G11 Café	¥218,049	¥0	¥218,049	
G12 Italian food	¥318,163	¥0	¥318,163		
Professional parent booths	Nail art, Hair braiding	¥71,750	¥0	¥71,750	
	Tamagoyaki	¥94,000	¥0	¥94,000	
Staff booths	Ice-cream (Yonanas)	¥40,725	¥0	¥40,725	
	Philippine BBQ+Banana	¥112,375	¥39,372	¥73,003	
Student booths	G7A Tapioca tea	¥75,875		¥75,875	
	G7B Wet sponge toss	¥83,000		¥83,000	
	G8A Hit the target	¥23,000	¥7,115	¥15,885	
	G8B Medieval theme mini-golf course	¥35,235	¥6,514	¥28,721	
	G9A Pop darts	¥18,125		¥18,125	
	G9B Einsteinian: The science experiment!	¥35,375		¥35,375	
G10A & B Haunted house	¥131,875	¥28,800	¥103,075		

Café Tomato より寄付	¥52,325
PTA ブースより	¥47,000

*Hospital for Humanity ~ 80,051 円・Sport Team ~ 20,025 円はそれぞれの収入となります。



エレメンタリースクールニュース

生涯学習について

生涯学習とは、個人的または職務的スキルや知識向上のため、自己に似合った環境で生涯を通じ行う学習と定義されています。生涯学習は様々な形で行われています。私たちスタッフ員のアーティスト、ミュージシャン、アスリート達は引き続き自分たちの専門分野でのスキル向上に努めています。また自分を磨くために大学院での学位取得や、その他の学問に励んでいるスタッフもいます。



KISTのスタッフは教員として成長し、最新かつ最善な教育の実践法を学習できるよう教育研修に頻繁に参加しています。教育研修は学校の外やオンラインで行われたり、専門家を招待しKISTで開催されることもあります。



エレメンタリースクールの教員がライティング教授法について知識と理解力を深めることが出来るよう、9月三週目の休みの間に、学校内でWriter's Workshop(ライターのための研究会)を開きました。このワークショップの指導者として、幸いな事にリテラシー専門家、コンサルタントのMrs Laura Bensonを招くことが出来ました。教員がワークショップ参加中に見せた意欲や、新しく得た教授法を教室で応用している様子は生涯学習に励んでいるという証拠です。

人生とは素晴らしいことを沢山学ぶことが出来る旅です。私たちと共に日々学んでいってくださっている皆さんが、KISTコミュニティーにいてくださり幸せです。

これからも一緒に学び続けていきましょう！

Kevin Yoshihara
Elementary School Principal

PYPニュース

国際人としての意識

IBが最も大切にしている目標の一つとして、「国際人としての意識」をもち生涯学習に励んでいく人材を育むということが挙げられます。国際人としての意識を持つという意味を理解するには、国際教育を推進する為にIBが考案した「Learner Profiles」(学習者像)を理解する必要があります。Learner Profilesとは、生徒が目標にすることが出来る特性のまとめで、小学生にふさわしく達成可能な内容となっています。私たちはこの十のプロフィールは、生徒達が世界に羽ばたいていき活躍する際に、自分の信念に忠実でいながら他者の異なる考え方の正統性を認め、受け入れることが出来るよう導いていってくれるものと信じています。

小学校の教員達はこのLearner Profilesを考慮しながら探求の授業を計画します。各ユニットは、一つや二つのプロフィールを集中して取り上げることによってセントラルアイデアの重要性を強調しています。これにより、生徒達が自分たちの想像力を活用しながら、Learner Profilesの総体的な理解力を深めることが出来ます。小学校の教室をご覧になると分かるように、各教室にLearner Profilesのポスターが掲示されています。このポスターは学習環境でのLearner Profilesの重要性を強調し、プロフィールが意味するメッセージを繰り返し主張する役目をはたしています。保護者の方々も同様にLearner Profilesについて学び、自分たちの見解をお子さんたちと共有することにより、この学習過程の一部となることが出来ます。保護者とお子さんが話し合い学んだことは、両者にとって国際人としての意識を習得する上での手助けとなるでしょう。その国際人としての意識を得るという事が、私たちスクールコミュニティーの目標であります。

Clay Bradley
PYP Coordinator



セカンダリースクールニュース

もう12月ですね！休みに入るにあたり、2014年に行なわれる事を考え、今年度既に行なわれた取り組みについて振り返ることが大事だと思います。

8月に1クラスの授業時間が短縮されたピリオドスケジュールが導入されました。生徒たちは以前に比べて増えたクラス間の移動と、2時間目と3時間目の間の休み時間を楽しんでいるように見えます。この10分間の短い休み時間でその後の学習をリフレッシュしてから行う事ができるよう、生徒にはこの時間に食べられる健康的なスナックを持つてくるように勧めています。

このスケジュールの変更とともに各クラスの始めと終わりにチャイムが鳴るようになりました。現在セカンダリーSRCでは、生徒が投票で決める事ができるように、4つのチャイムのオプションを提案しています。システムによる制限がありますが、このように生徒がコミュニティにより参加できるように積極的に提案をしていくのは大変素晴らしい事だと思います。

生徒の積極性についての話が続きますが、冬休み明けにはすぐにKIST Model United Nations Near East Scrimmageが1月11日に行なわれます。このイベントはG9-12の生徒を対象に行なわれ、エリア内にある他校を招き入れて模擬国連のシミュレーションが行なわれます。生徒は国の代表の役割を模倣し、現在の問題について話し合い、投票で解決策を決めていきます。G8の生徒

には委員会の間に入ってコミュニケーションのサポートをする機会が与えられており、興味がある場合は、参加方法についてDaily Noticesを確認してください。参加人数に限りがありますが、MUNについてより詳しく知りたい生徒にはとても良い機会となっています。

Habitat for Humanity(ハビタット)クラブの再開、写真クラブ、生徒マガジンは生徒が主体となっており、KISTのコミュニティ理解があり、行なう事ができています。これらの積極的に学校で意義のある活動に参加している生徒のことを誇りに思っており、来年を楽しみにしています。

皆様が良いホリデーシーズンをお過ごしできるよう願っています。

Stephen Rothkopf
Secondary School Principal

セカンダリースクールで今後行なわれるイベント

- **January 11:** G9-12 MUN scrimmage
- **January 13:** After-school clubs resume (information forthcoming)
- **January 17:** G10 IB DP Information evening
- **January 29:** Japanese New Year party

発達心理学にフォーカス

G12心理学クラスの生徒がゲスト講師をクラスに迎え入れました

Peg Barratt教授はGeorge Washington大学のColumbian Collegeで様々な役職を兼任しており、大学長や発達心理学の分野で研究をしています。DP Psychologyで学習しているトピックに深く関係のある、この分野で有名な方を迎え入れる事ができ、とても幸運な事です。Barratt教授は日本政府の政策がどのように親の子育ての方針や、子供の発育に潜在的な影響を与えているかを調べています。

11月13日の通常のG12 Psychologyクラスの時間にBarratt教授は、インタラクティブな授業をとおして教授の研究方法を共有してくださいました。丁度発達心理学の学習を始める段階だったので、教授のプレゼンテーションはG12の生徒達にとってとても良い時期に行なわれました。心理学者の研究方法を理解し、公表されている研究を分析する際に利点とデメリットを話し合い、自身で研究をデザインできるようになるのはこのコースの重要な部分となります。Barratt教授のような方に来ていただき、実際に現在の研究現場にあてはめて学習でき、とても恵まれていると感じています。

より詳しくBarratt教授の研究については、下記ウェブサイトをご覧ください:

<http://gwtoday.gwu.edu/peg-barratt-awarded-fulbright>

Stephen Rothkopf
Secondary School Principal/DP Psychology Teacher



クラブ紹介

Secondary photography club

セカンダリー写真クラブ

昨年度の終わりに当時G11のNaishi (現在G12)から、生徒が写真のテクニックを学び、取った写真をシェアし、写真の好きな生徒が集まりコミュニティを築ける場を提供する写真クラブを作るという提案がありました。彼女は夏の間計画を立て9月にクラブを始める事ができました。23名も生徒が集まったことにより、彼女のアイデアを生徒が待っていたということが明らかになりました。



毎週メンバーの一人がテーマ、使うテクニック、グループがフォーカスするプロジェクトを提案し、外で写真を取ってきます。秋には、とても天気の良い日に清澄庭園で撮影会を行なう事もできました。“shutter bugs”という名で生徒がメインビルディングの305号室の外にフォトウォールを創りました。



是非見に来てください。

Andre Ito
Photography Club Coordinator



Elementary Cross Country Club

第一タームのクロスカントリークラブは水曜日の放課後に行われていました。学校で軽くストレッチをした後に、参加者は小名木川(学校からすぐ)に向かい川沿いを1.5km周りました。毎回多くの生徒が3、4周完走しました。

クラブについてメンバーのうちの一人Grade 5B, Sakiが「一生懸命練習したらISTAAのクロスカントリー大会に出場できて、他のインターナショナルスクールの子達と友達になれる」と言いました。

クラブでのトレーニングの成果が実り、11名の生徒が実際にISTAAのランニング大会に今年の秋出場できることになりました。



東京ホロコーストセンターの理事がKISTを訪れました

2013年9月12日に、東京ホロコーストセンターの代表理事である、石岡史子さんが学校まで来てアウシュビッツ強制収容所で死んだユダヤ系の女の子の話をしてくれました。英語の授業ではKaren Levine著の“Hana's Suitcase”を読んでおり、この本には史子さんが残されたこの少女のスーツケースに隠されたストーリーを探している様子が描かれています。



史子さんはHana Bradyという少女について話をしてくれました。彼女は1931年5月16日にNove Mestoに生まれ、George Bradyという兄がいました。彼女の家族はとても幸せな生活を送っており、一緒にスキーやスケートをしていました。しかし、1939年にナチスがドイツとチェコスロバキア（現在のチェコ共和国）を占領しました。しばらくしてHanaとGeorgeは何もできなくなり、ユダヤ系の人々は公園や映画に行くことができず、店にも限られた時間しか行くことができなくなりました。1941年になると、Hanaのお母さんはゲシュタポと呼ばれるヒトラーの秘密警察に連行され、次の日には荷物をまとめて強制労働所に送られました。

1941年の秋、Hanaの父親も同じく強制収容所におくられました。1941年の冬には叔父であるLudvikがHanaとGeorgeに救いの手を差し伸べ、1942年の5月まで面倒をみてくれました。そのすぐ後にGeorgeとHanaにもナチスから、強制収容所に移る命令が下ります。GeorgeとHanaは1942年の五月にテレージエンシュタット刑務所に着きました。そこでの生活は悲惨なものでした。多くの人々はお腹をすかせ、ゾンビのようでした。しかし、Hanaはそこで年上の女の子達と友達になる事ができました。彼女達はHanaを支え、彼女に勇気を持つように教えました。

1943年にGeorgeはテレージエンシュタットから移動となりました。彼が移動となる前に、彼はHanaに戦争終了後にNove Mestoで会おうと話しました。1944年10月23日にHanaもテレージエンシュタットから移動となります。彼女はうちに帰れるものだと思いましたが、アウシュビッツに移動となりました。彼女が到着した直後に彼女はガス部屋に送られる事となり、死にました。しかしGeorge Bradyはアウシュビッツを生き残ることができました。彼はこの戦争の

家族唯一の生き残りとなりました。

史子さんの冒険は、アウシュビッツ博物館に行った際に強制収容所にいた子供の持ち物を貸してもらわないかと尋ねたところから始まりました。日本の来館者に、差別がどのように子供の人生に影響を及ぼすかを伝えるためには何か展示する物が必要だと考えました。ようやくスーツケースが日本に届き、そこにはHana Bradyの名前が記されていました。史子さんがそのスーツケースを見た時に、彼女はHana Bradyについて調べられる事全てを知らなければならぬと感じました。Hana Bradyに関する情報を集めるのは簡単ではありませんでしたが、2000年7月によりやくテレージエン博物館にて彼女の情報を得る事が出来ました。そこで彼女の兄Georgeは生き残ったが、彼女がアウシュビッツで死んだ事を知りました。史子さんはGeorge Bradyさんに、日本にあるHanaさんのスーツケースについて手紙を送りました。それを聞いたGeorge Bradyさんは驚き、感激し、日本に来てHanaさんについての思い出とホロコーストについての記憶を来館者に共有してくださいました。



私達は史子さんのお話から、差別がHanaと彼女の兄Georgeのような罪のない人達に与えるネガティブな影響について学ぶ事が出来ました。

Moe Min (G8B)

Reference:
Levine, K. (2003). *Hana's Suitcase*. Boston, MA: Whitman, Albert & Company.



MYPニュース

MYPサイエンスの授業は実際どのようなものなのでしょう？

昔のクラスルームとの大きな違いを挙げるとすれば、教員が常に授業を仕切っているわけではないということでしょう。通常MYPでは生徒を学習の中心にする事を目的としています。研究によると、生徒が自身で探究心を持って学習をする事、“構築主義的学習”と呼ばれる手法をとることにより、本当の意味での学習と、新しくその教科で学んだ知識を身につけ、応用する事に繋げられる事が証明されています。実際には、何も指導の無いランダムな生徒の探求は、信頼できないインターネットの情報、関係の無い内容、生徒の理解を超えた学術記事などに繋がり、絞り込まれすぎたトピックに、時間を使いすぎることになってしまいます。

そこで、どのようにバランスを見つけるのでしょうか？やはり賢いIBの人たちも同じ事を考えMYPを作りました。私が思う“解決策”はアセスメントモデルにあります。**評価項目 A: One World**と**評価項目 B: Communication**では700-1200字のエッセイを、教員が定めた広いトピック、例えば環境問題などについて書きます。下にはIBによって定められたレベル6の達成度を示す説明文があります。教員は、その課題用の説明文(task specific clarification)をOne Worldエッセイを行なうたびに生徒に提供します。One Worldエッセイで生徒は、科学が社会でどのような役割を持っているかについて理解を深め、地域的、世界的に科学の発達がどのように問題解決に応用されているか探求してゆく事ができます。この課題で最高レベルの6を取るために、G9、G10の生徒は以下の事が出来なければなりません：

- 科学がどのように**具体的な**問題を解決するために応用されているか**説明**できる
- その問題の解決の際に科学がどのように**有効**であったか論じることができる
- 倫理、道徳、社会、経済、政治、文化、環境の中から最低二つを選び、その分野と科学との**関わり**や、どのように応用されて具体的な問題が解決されているかについて**論じ、評価**できる

評価項目 B: Communicationでは、専門的な科学用語の的確な使い方と、エッセイの構成、全て引用・参照できているかについて評価します。ここで重要なのは、この課題では生徒がほぼ全部自分で細かいトピックを決め、自分でリサーチを行い、適切な情報を自分の言葉に置き換え、他の教科と結びつけ、他分野との関わりを考え、自分で結論を出すことです。

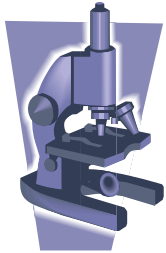
評価項目 C: Knowledge and Understanding of Scienceでは、科学的説明を構成できるか、問題の解決策を提示できるか、科学的に根拠のある主張をまとめる事ができるか評価していきます。この評価項目を用いてテストを評価します。結果としてここでは“昔ながら”の教員主導で



の指導が行なわれます。しかし、教員が常にノートを取らせ講義をするのではなく、生徒には質問や課題、ワークシート、ポスタープロジェクトやプレゼンテーション課題などが与えられ、生徒を学習の中心に戻します。そこで、教員が学年やレベルにあった信頼のできるリソースにアクセスできるようにし、生徒の探求学習をガイドします。この点において教科書は非常に重要となります。

最後に**評価項目 D: Scientific Inquiry**、**評価項目 E: Processing Data**、**評価項目 F: Attitudes in Science**は、全て実験についての評価項目となります。評価項目Dで一番重要なのは、生徒が**自立して**実験をデザインし、科学研究を行なわなければならないということです。これは科学の教育者として一番の頭痛の種であり、この上ない喜びを感じる部分であります。まず始めに、実験用の台が9つしかない中で20の別々の実験を行なう事は不可能です。この問題は教員が、植物の発芽に関係する要素、成長や反応など実験の対象を定めることによって解決できます。生徒はそこからリサーチクエスチョン、独立変数、従属変数、実験方法、必要となる物のリストなどを自分で決めなければなりません。その後、近い変数を持った生徒でグループを作ります。上と下にある写真はG10の生徒が実際に生物学のクラスで実験を行なっている様子です。全ての実験台で、異なった実験が行なわれている事に注目してください。これらの実験のうちのいくつかでは、熱量計、二酸化炭素ガス検知器などの精巧なデータ採取道具が使われていました。これら全ての実験でデータ処理とプレゼンテーションをMicrosoft Excelを使って行いました。

この**評価項目 E: Processing Data**でとても重要なのは、生徒が**自分で**情報(データ)をまとめ、処理し、量的、質的データの解釈をしなくてはなりません。ここではカリキュラム全体で数学がいかに重要かわかります。ほとんどの生徒はExcelを使ってデータを処理し、プレゼンテーションの準備を行いますが、正しく行なうためにはこのアプリケーションで行なわれている数学を理解する事が必要になります。



前ページの続き

これらの実験を行なうためのリソースを用意するのは大変で時間がかかる事ですが、IB MYPとDPのサイエンスの実験に必要な多大なリソースを揃えるのに強いコミットメントをもった学校によりとても支えられています。IB MYP、DPのサイエンス教員以外にはあまり理解されていないようですが、実験のアセスメント(評価)も難しく時間がかかり、サイエンス教員にもプレッシャーがかかります！

Andrew Young
MYP Coordinator

G9とG10のサイエンス.....

サイエンスの教科ローテーション

CambridgeのInternational General Certificate in Secondary Education (IGCSE)のシラバスをIB MYPの枠組みにあてはめるために、KISTの今年度のサイエンスコースが変わりました。加えて生物学、化学、物理それぞれ教科を専門の教員から学べるように、一年を3期に分けてローテーションをしています。各教科で、エッセイ、試験、実験レポートの3種類のアセスメントを行います。

現在、生徒達は心配しながらも教員が変わる事に楽しみを覚えつつ、効果的に、そしてスムーズに最初のローテーションを終えました。生徒達は変更後のシラバスを難しく感じているようですが、下の写真から見ても分かるように新しいシラバスへの挑戦を楽しみ、やりがいを感じているように見ます。

最後のローテーションは2014年3月に行なわれ、G9とG10の生徒は学年度の最後に3つ(生物学、化学、物理)の試験を受けます。

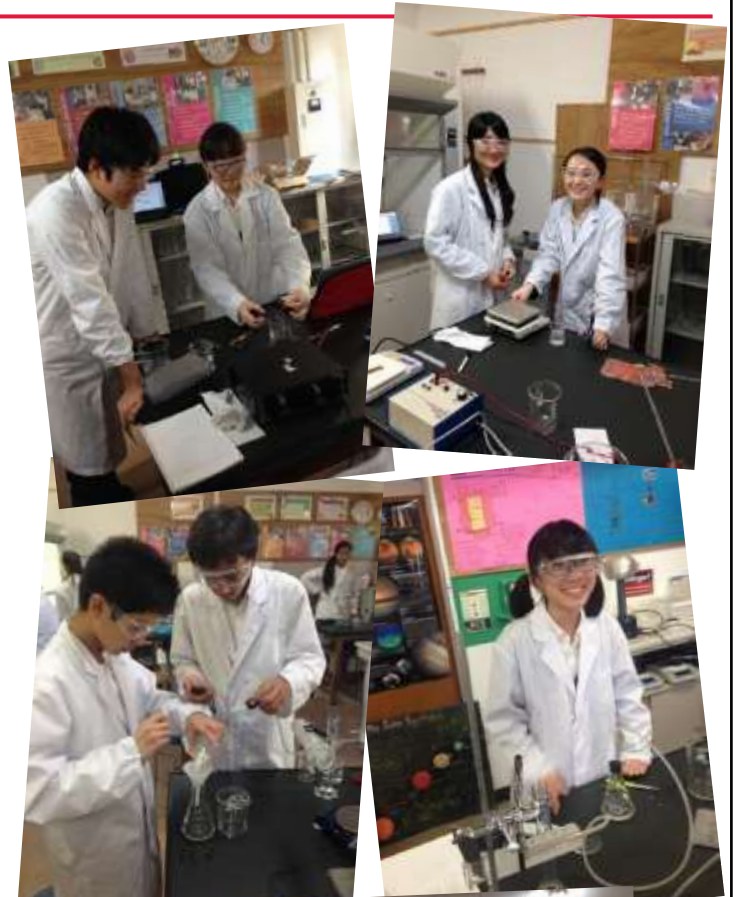
John Rose
Science Subject Area Coordinator

What the students say:

"It's a good change." (Azzam G10A)

"Nervous, but exciting." (Joh G10A)

"It's exciting to get a different teacher." (Hee Dae G10A)



LEAPについて

Learning Enhancement Academic Program (LEAP)



2013-2014年度のLEAP第一期も中盤にさしかかっています。今年度より、LEAPのプログラムが様々な点で大幅に改善されました。

今年度はクラスが学年ごとに分けられ、各クラスの人数制限が6人になりました。LEAPは独立したプログラムですが、今年はLEAPの授業内容を新たに見直し、通常の授業で教えられている内容と関連したクラスを運営することになりました。担任の先生たちの協力を得て、LEAPの担当教員は週ごとの通常授業プランを参考にしてLEAPのクラスを計画しています。このようにクラスを計画することで、生徒達が既に学んだコンセプトを更に定着させ、トピックを掘り下げて話し合う機会を設けることが出来ます。また通常の授業でつかむことが出来なかったコンセプトを生徒達がきちんと理解できるようになるための手助けとなります。

今年度は4つのLEAPクラスを実施しています。

- English Grammar (英文法)**(月曜日 3:30 – 4:30 p.m.)
 このプログラムは、生徒が通常授業で学習している英語のリーディング、ライティング、文法のトピックに焦点を当てています。様々なリーディング、ライティング、ジャーナルを使ったアクティビティーを通して、エレメンタリースクールに必要なリーディングとライティングスキルを伸ばすことを目標としています。また学習ゲームやグループアクティビティーによりボキャブラリーを身につける事ができます。
- Math Basic (算数基礎)**(水曜日 3:30 – 4:30 p.m.)
 このプログラムは生徒が通常授業で学んでいる算数の内容に沿ったものとなっていて、数学の基礎知識を定着させるための内容となっています。また算数記号の意味や、足し算、引き算、掛け算を学ぶ事で算数や算数問題に関連したボキャブラリーを学ぶことができます。
- English Speaking/Discussion (英会話・ディスカッション)**(木曜日 3:30 – 4:30 p.m.)
 このプログラムは英語のスピーキングとリスニングを集中しておこないます。通常授業で勉強しているユニットに関連した様々なアクティビティーやディベートを通して、スピーキングとリスニングの力を伸ばすことが出来ます。またプレゼンテーションにスキルを磨くようプレゼン



テーションの練習もいます。



- Math Literacy (算数リテラシー)**(金曜日 3:30 – 4:30pm)
 このプログラムは算数の基礎知識をしっかりと固め、応用力を身に付けることに焦点をおいています。生徒は文章問題を読み、質問の意味を理解した上で算数の基礎知識を利用し問題を解いていきます。また算数と算数問題に関連したボキャブラリーも学んでいきます。

最もサポートを必要としている生徒がLEAPに参加できるように、教員が指名した生徒を最優先にさせていただいています。新たにプログラムが改善されてから、クラス担任、LEAPインストラクター、生徒の皆さんから好評を得ることができ、保護者の方々のサポートに感謝しています。

今年度のプログラムの主担当者はMr James Kenyon (james.kenyon@kist.ed.jp)と私です。プログラムに関する質問がございましたらメールまたは直接メインオフィスまでご連絡をください。

Web LEAP



今年度からWeb LEAPに、最新のMoodleシステムをアップデートしてプログラムを再開しました。このプログラムは、完全オンラインシステムで教員が採点をし、生徒のライティングスキル向上を図ることを目的としています。宿題は、クリエイティブライティング、比較と対比、説得力のある文章の書き方、ナラティブライティング(話の書き方)などをとりあげています。生徒は毎週2つか3つのトピックについて文章を書き、下書きを三回まで提出できます。教員は下書きを細かく直し、コメントや今後の宿題についてのアドバイスを含み採点をします。また文字制限を守り、正しいボキャブラリーを使いながら、文脈が通っている論理的な文章を書くなど大切なスキルを学ぶこともできます。

Web LEAPは7段階にわかれていて、Grade 4から10を対象としています。私がGrade 4から6を、Mr Yuta Hino (yuta.hino@k-LEAP.jp)がGrades 7から10をうけています。Web LEAP参加に興味がある方は、ウェブサイトをご覧ください。 <http://www.k-LEAP.jp>

Anna Holdaway

LEAP Coordinator/Office Administration Assistant
anna.holdaway@kist.ed.jp

いじめの防止と早期発見

学校の教育理念の一つに、「いじめやハラスメントのない安全で協動的な学習環境を維持するには、必要な場合に適切な行動をとり、学校全体でサポートすることが求められる。」とあるよう、KISTでは、いじめが疑われたり、発覚した場合、放置せず解決に向け真剣に取り組んできました。それを後押しするように、日本ではいじめ防止対策推進法が2013年6月に成立、2013年9月28日に施行されました。この法律により、スクールコミュニティが一丸となっていじめの防止と早期発見に取り組み、そしていじめが発覚したら、すぐに動く、いじめに対し厳しく対処する、という責任がさらに明確になりました。

学校にはいじめ防止と早期発見に取り組む責任があります。いじめ防止のための取り組みの1つとして、セカンダリースクールのアドバイザーでは年に数回いじめ問題を考える授業を行っています。3週間前のGrade 8のアドバイザーの授業では、生徒はいじめ防止対策推進法について学び、また、いじめ問題における学校の責任、生徒の責任・保護者の責任について考えました。

では、保護者の責任は何でしょう？いじめ問題における保護者の責任は子どもを教育することです。つまり、子どもがいじめをしない子に育つように、努力することです。ご家庭でもいじめ問題について話し合う機会を設けることは、いじめを防ぐことに繋がります。以下のようなことをご家族でも話し合ってみて下さい。

- いじめとはどのような行為を指すか
- いじめに繋がる行為とは何か

- いじめによる影響(いじめられたらどんな気持ちになるか)
- いじめは犯罪行為であるということ



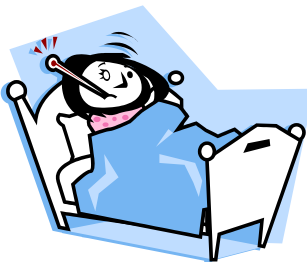
話の中で、特に強調して頂きたいのは、最後にある「いじめは犯罪行為である」というところです。一例をあげますと、誰かを叩いたり、蹴ったりするなどという行為は暴行罪、物を隠したりするのは窃盗罪、悪口を言うのは名誉毀損罪です。これらのことをきちんと説明をしてあげて下さい。

また、子どもがいじめられたときに子どもを保護するのも保護者の責任です。ご家庭でのお子さんの様子が変わったと思ったら、お子さんに話を聞くだけでなく、学校にも相談して下さい。保護者からいじめに関する相談があった場合、学校には調査をし、対処をする責任があります。また、相談したからといっていじめがひどくなるということがないよう、お子さんを守る責任もあります。

お子さんが安全で安心な環境で学習できるよう、スクールコミュニティで協力して、いじめの防止および早期発見に取り組んでいきたいと思っております。ご協力よろしくお願い致します。

Nanami Komaki
Student Welfare Counselor

保健便り



インフルエンザ予防対策

インフルエンザの季節が近づいて来ました。インフルエンザの予防方法は、既に皆さんご存知の通り、「うがい、手洗い」「マスク着用」「50～60%の加湿」「十分な睡眠」

「栄養のバランス」「規則正しい生活」などですが、私達は、この簡単なあたりまえの事ができなかつたりします。そこでもう一度ご家族で、インフルエンザの予防方法を見直してはいかがでしょうか？

予防方法の1つ「うがい、手洗い」はとても重要で、今回は皆様に有効的な手洗い方法をご紹介します。

1. 石鹸を泡立てながら、手のひらどうしを、よくこすり合わせる
2. 両手の甲をこすり洗う
3. 指の間を洗う
4. 親指と手のひらをねじり洗う
5. 指先、爪の間を洗う
6. 手首を洗う

以上の手順を15秒以上かけて行い、その後はタオルで水分をよく拭き取ります。難しくそうですが、インフルエンザウィルスを洗い流す気持ちで、外出から帰ったら、この手洗いを試してみてください！

Maki Whittaker
School Nurse

図書室ニュース

Hungry ReadersとYatta! Cards

10月に行われたYatta! Cardsのくじ引きで当選した生徒の皆さん、おめでとうございます！Yatta! Cardチャレンジは生徒がIB学習者像に基づき行動し、積極的に授業に参加するように奨励するプログラムです。またセカンダリースクールでも多くの生徒が読書をし、LMCにあるHungry Readersのブックレットを完成させていました。当選者はライブラリアンとPTAライブラリー委員会からギフトを受け取りました。

Yatta cardチャレンジの当選者は以下の皆さんです。

Arnav (G2A)、Felicia (G5A)、Remi (G6B)、Chae Hyun (G7A)、Yuki (G7B)、Muskan (G10A)



2014度さくらメダルの本

さくらメダルの本が全て図書館から貸し出し可能になりました。日本語と英語でフィクションの絵本、チャプターブック、挿絵つきの本、中高生向けの本など様々なカテゴリーを用意しています。本を五冊読んだ生徒は(ミドルスクールは四冊、ハイスクールは三冊)、2014年度さくらメダルの本の中から一番好きなものを投票することが出来ます。Hungry Readerブックレットにはさくらメダルの本を記録できるようになっていて、冬休み中に行う読書のむけて図書館の机から今月中に入手することが出来ます。さくらメダルの本のリストはライブラリーのMoodleページにてご覧になれます。



Drop Everything And Read (DEAR)



エレメンタリースクールでは、DEARのイベント開始を本のキャラクターコスチュームパレードでお祝いました。パレードは11月5日に行われ、生徒と先生たちは自分たちの好きな本のキャラクターに仮装しました。エレメンタリーライブラリーのMoodleのページにて写真をご覧になれます。

生徒達は、自分たちのお気に入りの本のキャラクターを学校のみなさんと共有するために、エレメンタリーライブラリーとLMC



にあるDEARの壁に掲示をしました。二位と少しの差でGeronimo Stilton 一位を獲得しましたが、Squish, Babymouse と Harry Potterも劣らずに人気でした。エレメンタリースクールでは、Diary of a Wimpy Kid (グレッグのダメ日記)のJeff Heffleyも選ばれ、セカンダリースクールではHunger GamesのKatniss Everdeenが人気でした。

DEARは11月いっぱい行われ、生徒とスタッフは毎週水曜日の朝に二十分間黙読をしました。生徒達はフィクション、またはノンフィクションの本を英語または自分の母国語で読み、この活動を通し読書が生涯役立つスキルであることを示し、サポートしました。

国際母語デー (International Mother Language Day)

国連国際母語デーが来年の2月21日に行われます。KISTもこのイベントに参加し、学校に在籍している国際人であるスクールコミュニティのメンバーと、多国籍な環境を祝福したいと思います。エレメンタリースクールでは、ライブラリアンとPTAライブラリー・イベント委員会により民族衣装パレードを計画しており、保護者による話の読み聞かせや生徒の作品などの掲示物を展示などのアクティビティーを予定しています。詳細は一月に発表予定です。

Mobile Libraryの紹介

新しいライブラリーの本をみなさんにきちんと扱い、多く借りてもらえるようエレメンタリースクールではMiss Leslie が Mobile Library Return Cart (ライブラリー移動式返却カート)システムを開始します。生徒達が週末に読んだ本を返却できるよう、南館で移動式のカートを設置します。設置スケジュールは以下の通りです。

- 毎週月曜日: 9:00 to 9:20—1F
- 毎週火曜日: 9:00 to 9:20—2F

このシステム導入に向け、生徒達が本を教室の外に設置されている箱に返却するよう、南館の一階と二階の教室の先生たちに指導の協力をお願いしたいと思います。また新しく本を借りたい生徒は、スナックの休憩または、放課後に図書館に来てください(ライブラリーが閉館している火曜日を除く)。



KIST Libraries Team

DPニュース

G11: Extended Essay (課題論文)のセットアップ

11月の中ごろからG11の生徒は彼らのDPカリキュラムの一環として、課題論文のセットアップを行っています。この課題論文(以下EE)は自身が興味を持った学術的トピックを生徒がリサーチする機会を与える課題です。EEは生徒のリサーチスキル、時間の上手な使い方、知的好奇心を育むため、IBディプロマでは必須となっております。最終的には自分で決めたトピックのリサーチクエストンについて3000-4000字の論文を書き上げます。

現在生徒達は自分のEEの教科とトピックについて考えている段階です。自身の興味がある教科とトピックを選ぶのに加えて、既に十分な知識とスキルを持った教科とトピックを選ぶべきだと伝えられています。EEの出来が良ければIBディプロマの学外評価の一部分としてEEとTOKで3点を得る事に近づきます。

自立して行なわなくてはならない課題であるため、EEを難しく感じる生徒がいますが、保護者の皆様もMoodleにあるEEのページを見て、より詳しく知る事によりお子さんをサポートする事ができます。MoodleのDP Extended Essayのページには保護者がお子さんをサポートするのに必要な全てのリソースが揃っているため、保護者の皆様にはご覧になってくださるようお願いいたします。特にEEのタイムライン(提出期日など)と良い成績を取ったEEの例は見ておくと良いかと思えます。加えてKIST卒業生のEEもLMCIに置いてあり、生徒と保護者も閲覧できるようになっています。

Mark Cowe
EE Coordinator



G12大学願書用のPredicted Grades (予測成績)

この時期になりますと、多くの生徒が大学願書のサポートとしてIBの予測成績(以下PG)を必要とします。これは生徒にストレスを与える事もありますが、教員がこれらの予測を立てるための明確なポリシーとプロセスを学校は使っています。プロセスの説明は下記にあります。

学校は、大学願書に使うためのIB PGをG12の秋から評価し始めます。このPGは生徒の公式なレポートではなく、大学の願書のためだけにしか使う事ができません。これは生徒が学外評価されるIBディプロマの最終試験での成績の予測であるため、学校のセメスターレポートとは成績が違う場合もあります。最終的にIBは各教科の成績が95%信用できるものである事を目標としており、生徒のPGとIBの最終成績には自然と違いがある可能性があります。IBO (2004) "Diploma Programme assessment principles and practice" p.13より

G12の保護者で大学願書用のIB PGについて質問がある場合はMr Coweまでご連絡ください。

KIST PGポリシー

IBからのインストラクション

"PGは、教員のIBの基準に関する知識と生徒の行った課題を元に、教員がその生徒の最終成績を予測して出す成績です。成績が良すぎたり、悪すぎたりする事のないように、出来る限り正確な数字を出すことは非常に重要な事です。" IBO (2013) "IB DP Handbook of Procedures 2013-2014" Section A10.6より

KISTで教員に与えられるガイダンス

大学願書用のPGを出す際には、教員はG11の始めからのアセスメントデータを用いるべきであり、実際のIBDPのアセスメントでのパフォーマンスを測る事を目的としているため、セメスター試験とサマティブアセスメントに重きを置いてPGをつけるべきです。従ってKISTセメスターレポートの成績と異なる場合があります。

Mark Cowe
IB Diploma Coordinator

Staff 10!

今月のStaff 10!は、2011からK1のアシスタントとして学校に加わり、今年度からエレメンタリースクールのK1からGrade 5の音楽を担当している

Robert Collins先生です。 Mr CollinsのK2の授業中の様子



● 出身地について面白いことを教えてください。

私の故郷オマーは小さな町で、1998年に起こった北アイルランド史上最悪のテロの被害地として有名です。また、いい事と言えばジュラシックパークの俳優Sam Neilがこの町の出身であることです。

● 世界で一番好きな場所はどこですか？

日本だと思います。日本の自然と美しい四季が大好きです。

● チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

過去に戻って、バック・トゥー・ザ・フューチャーのMarty McFlyみたいに、家族や有名な人たちが人生の違う時点にいるのを見ることが出来たら面白いと思います。

● 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

作曲するのが好きです。

● ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

私と友達で、一日の合気道の受身の数の世界記録を保持しました。でも私たちの世界記録は長続きせず、三日後に日本チームに記録を破られてしまいました。

● あなたにとって一番の宝物は？

ギターやレアなコミックブックなどを持っていますが、物にあまり価値を見いだしません。友達と家族が私にとって一番の宝物です。

● ご自分を言葉で表現すると？

友達が私のことを優しくして、正直で忍耐強いといいます。少なくとも私の前では！

● もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

はい。シャイになりすぎたり、臆病意になって出来なかったことをしたいです。

● 自分を高めるために今やっていることは？

仕事の面では、教えるスキルを磨きたいです。個人的には、日本とフィットネスの腕を上げたいと思います。

● ファンに一言お願いします。

私の昔の先生が言っていた、チャレンジに立ち向かい、自分を大切にしなさいというメッセージがこめられた決まり文句があります。授業の最後にも“Get on yer horse and drink your milk”(馬に乗って、ミルクを飲みなさい)と言いました。お気に入りの決まり文句でした。



オフィスアップデート

欠席の届けについて

この場をおかりして、お子さんの欠席に関する学校への伝達方法の手順を再確認させていただきたいと思います。以下に記載されているように、欠席する日数により届けの手順が変わります。

1～5日の欠席

欠席に関する届け >>> info@kist.ed.jp

全ての短期間の欠席に関しては、学校が始まる前に**スクールオフィスに直接**(教員への伝達は受け付けません)連絡をしてください。

- 書面の記録を残すため、メールでの連絡をお願い致します。スクールメールにアクセスできない場合は8:00から8:30の間にスクールオフィスまでお電話ください。
- 学校に登録している本名、学年とクラス、欠席の理由を伝達ください。
- 欠席の届けは保護者の方からのみ受け付けています。生徒からの連絡は認めません。
- 安全上の理由により、欠席の連絡を受けていない生徒に関しては保護者の方に電話で確認を取らせていただきます。

6日～1ヶ月の欠席

Application for Temporary Absence (短期欠席願)をオフィスに直接提出してください(フォームはスクールウェブサイトから入手可能)。病欠以外の全ての長期欠席は、アドミニからの承諾が必ず必要になります。

- 欠席前に**出来る限り前もって**、長期欠席願をオフィスに提出ください。
- 欠席願が提出された後、保護者のスクールメールアドレスに届けに対する結果を送らせていただきます。配慮する点がある場合は、保護者の方に直接連絡させていただく場合があります。
- 6日以上病欠の場合は、欠席願に医療診断書を添付し、学校に復帰する際に提出お願い致します。
- 急に6日以上欠席する場合は、その旨を速やかにメールまたは電話で連絡ください。学校に復帰する際に長期欠席願(必要に応じて医療診断書を添付)を提出お願い致します。

一ヶ月から一年の欠席

Application for Extended Leave of Absence (長期欠席願)をオフィスに直接提出してください(フォームはスクールウェブサイトから入手可能)。長期欠席に関する詳細は長期欠席願のフォームを参照ください。

第3回目学費支払いについて

2013年度 第3回目の学費お支払い期限は、**12月16日**となっております。まだお支払いがお済みでない方は、期限までにお支払いいただきますようお願いいたします。

スクールランチオーダーについて

また、1月からのスクールランチのオーダー変更・キャンセルの受付は**12月13日**までとなっております。オーダー曜日変更またはキャンセルをご希望の場合は、お早めにフォームの提出をお願いいたします。

<http://www.kist.ed.jp/node/5>

城西国際大学小論文コンテスト受賞に寄せて

ある日、いつものようにメールをチェックしていると、見慣れないメールが目飛び込んできた。“あなたの小論文が国際部門奨励賞を受賞しました。つきましては授賞式にご出席ください。”思わず声を上げると、両親が慌てて部屋にやってきた。何か良からぬことが起こったと思っただろう。

その小論文は、学校の授業の一環で書いたものだった。テーマは“十年後の世界と私”。この論文を書くにあたって、私は自分の将来についていろいろ思いを巡らせた。

私は将来、メディア関係の仕事に就きたいと考えている。メディアは、今後ますます社会に大きな影響力を持つ、やりがいのある仕事だと思うからだ。しかし、その反面その責任も重く、一歩間違えれば、多くの人を傷つける刃にもなりうる。

私は、この論文の中で、日本のある市長の発言が世界中に報道されたことにより、大きな波紋を広げたことを例に上げ、メディアのあるべき姿を、自分の将来と重ねて書いた。また、“ペンが剣よりも強し”ということわざは、本来、“武器を持って戦うよりも、ことばで議論しよう”という意味に他ならないが、メディアが発達した今、その使い方を誤ればペンは凶器にもなるという警告にも取れると思ひ、それを肝に銘じて、将来メディア社会で活躍したいと決心した。

これを読んだ日本語クラスの担任である加茂先生が、小論文コンテストに応募してみたらどうかとおっしゃってくださいました。城西国際大学主催のコンテストで、詩人の吉増剛造さんが選考されるとのことだった。推薦していただいたことが嬉しく、応募はしてみたものの、まさか受賞するなんて思ってもみなかった。しかも国内のインターナショナルスクール生の受賞は私だけのようなので、さらに驚いた。

授賞式当日、大学に到着すると、私以外にも10人ほどの高校生が集まっていた。みな、ご両親や先生方に付き添わ



れ、緊張の面持ちだ。式では、地方のテレビ局や新聞社なども来ていて、初めて一斉にフラッシュを浴びる、ちょっと芸能人のような経験をした。

衆議院議員でもある、柳沢伯夫学長や、吉増剛造さんから祝辞をいただく栄誉にも恵まれた。吉増さんは講評の中で、ひとつのテーマから、書き手によって全く違う世界が作り出されることのすばらしさをほめてくださった。詩人だけに表現が豊かで、そのことばひとつひとつに心が震える思いだった。

このような機会を与えてくださった加茂先生はじめ、KISTの先生方から感謝し、この経験を生かし、自分の描く未来像を現実のものにできるよう、さらに努力を重ねたいと思っている。



Sara (G10A)

おめでとう！



KISTの生徒は11月に跡見学園中学校高等学校で行なわれたプレゼンテーションフェスティバルに中村学園女子中学校・高等学校(清澄庭園の側にある学校)から招待されました。G10AのJiayingはこのユニークなイベントで、KISTを代表して、探求者と挑戦する人を体現してくれました。

“日本の高校生は世界に向けて日本の文化と伝統に関してどのようなメッセージを伝えたいか”というトピックに関し

てのプレゼンテーションをグループで協力してつくりました。中村学園女子中学校・高等学校の早川先生は、“Jiayingは彼女のチームが素晴らしいパフォーマンスを見せるための重要な役割を果たしました”とコメントをくれました。プレゼンテーションでJiayingは、日本の文化を世界に伝えるTVニュースの記者として、素晴らしいコミュニケーションスキルを見せました。



WELL DONE JIAYING! KISTを良く代表してくれてありがとう！

ミドルスクールドラマフェスティバル

パワーレンジャーズ

11月14日にミドルスクールドラマフェスティバルが行なわれ、私はG6-G8の生徒8人のグループに入れられました。今年のテーマはスーパーヒーローで、スパイダーマン、バットマン、スーパーマンなどがありました。私はパワーレンジャーズのグループに入れられました。

私達のスーパーバイザーは女性で、ドラマ(演劇)を専攻して学び、彼女が教えている学校でドラマレッスンのサポートをしていました。一緒に話を作り上げる気持ちになれるように、私達はお互いの名前を覚えるためのゲームをするところからはじめました。その後グループでみんなの名前を呼び合い、お互いの名前を覚えているかを確認しました。その後“unfortunately fortunately”という、誰かがfortunate、もしくはunfortunateと言い、話を始めるゲームを行いました。みんなが一人一文話し、その話を続けなければいけません。交互にfortunatelyとunfortunatelyを使い話を続けなければなりません。

誰もが真剣に捉えることのできないような面白い話を作る事を目的としていたため、スキットのために作った話はとても非現実的でおかしなものとなりました。誰がどのキャラクターになるかを決める際には、私を含めた5人の女の子がパワーレンジャーとなり、最後に5人で力を合わせて悪と戦う役に決まりました。2人の男子生徒は敵役となり、1人の女子生徒と1人の男子生徒がパワーレンジャーの友達で悪に染められる役となりました。最後にすこしひねりを入れて、3人のパワーレンジャーが死に、スキットの途中で死んだはずの敵が生き返るといった内容にしました。一日を通して10回ほど練習し、常に何かを足したり、引いたりして5分という制限時間に収まりスキットが観客にとって面白くなるように工夫しました。

一日の終わりにパフォーマンスが行なわれるホールに移動してパフォーマンスを行ない、他のグループのスキットも見ました。観客から笑い声も聞こえた事から私のグループはとても良く出来たと思います。それに何より私とグループが楽しみながらできました。



この経験を通して今も連絡を取り合っている友達もできました。私はとても素晴らしい一日を過ごすことができ、いつもと違うことを行い、考えをシェアできただけでなく、他のグループのパフォーマンスを見る事もでき、必ず将来に役に立つであろうスキルも得る事ができました。来年のハイスクールドラマフェスティバルも今回と同じくらい良いものとなる事を願っていて、今から楽しみにしています。

Sara (G8B)

言語の役割

9月に3日間にわたり、KISTから数名の教員が横浜で行われた「言語の役割」というワークショップに参加しました。PYPの教員たちが日本、中国、韓国から参加し、実りのある学習経験を得ることができました。ワークショップでは子供たちの言語習得について学び、またその言語習得とPYP実施校での学習や教授の関わりについて掘り下げて読み、話し合い、アクティビティーを行いました。後日、KISTのエレメンタリースタッフたちに私たちが学んだことを発表しました。発表を通じて行われたディスカッションのより、授業で活用できるアイデアを考え出し、教師間で一致した考え方の骨組みとなる「子供たちの言語習得法に関する一致」を考案することが出来ました。これにより、生徒がエレメンタリースクールで学年を重ねていく上で、教員が言語発達と総合的学習に向け一貫したサポートを提供することが出来るようになります。

KISTは、沢山の異なる言語を話す生徒(また保護者の方々とスタッフを含め)がいるとても恵まれた環境です。IBの文献Language Scope and Sequence (言語スコープとシーケンス)に「言語の多様性と奥深さに触れることは、生徒の人生と学習への探究心をかき立てる」(p.2)と書かれています。KISTでは日常的に生徒達が様々な言葉にふれることで、探究心を育てています。また、Language Scope and Sequenceに「母語の発達は認知発達において不可欠」であり「母語の習得の成功は、外国語習得を含めた長期にわたる学業達成を示す」と述べられています (p.1)。

私たち一人ひとりが言語の質を向上するために努力することが出来ます。例えば、私が理解できない言葉があるときは「英語ではなんと言いますか?」と質問します。生徒達はこの質問に答えることで、自分たちの持っている多様な言語の知識を明確に出来ると共に、両方の言葉を磨くことができます。これこそが、探究心と学びの発展につながる「言語を使った体験」だと思います。

Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator



PTAニュース

イベントコミッティ

Bake sale

12月13日(金)

このBake SaleはG2とG8の学年の保護者の皆様を中心となって、Winter Holiday Marketとしてバイクセールを開催します。



English Day at K.

2月9日(日)

11月22日(金)からEnglish Day At K.の申込みを開始いたしました。定員は160名です。どうか1人1人がこのイベントを対象者に知って頂くための広報活動のお手伝いにご協力ください。

例えば前回以下の方法等で周知を行いました。

- 保護者の方のご好意で10万部発行しているフリーペーパーに広告を載せさせて頂きました。
- 新聞広告、塾配布、豊洲パレード配布、お祭りに配布、プリスクール協会、様々な学校配布、マンションの告知場所への依頼。
- メール、SNSなどの活用

また、このEnglish Day At K.では企業広告も募集しています。A5サイズ20,000円、A5の半分のサイズ10,000円です。

そして広報担当リーダー、ルームリーダー、当日ボランティアも募集しています。

English Day At K.に関してのお問い合わせは:

englishday2014@family.kist.ed.jp

その他のお問い合わせは:

pta.events@family.kist.ed.jp

ライブラリーコミッティ

ブッククラブ

今年度第一回目のScholasticブッククラブは大成功でした！皆様のサポートはAlex Rider、Geronimo Stilton、Gallagher GirlsやMy Sister the Vampireといったシリーズの最新刊を含む400米ドル超分の新しい本をライブラリにもたしました。今回注文して下さった、そしていつもライブラリを助けてくださるKIST保護者の皆様に大きな感謝を！



International Mother Language Day

2月21日に行われるInternational Mother Tongue Language Day(国際母語記念日)の計画をはじめました！保護者による読み聞かせは毎回この日の大きな目玉となりますが、その読み聞かせをして下さる保護者を求めています、どの言語でも構いません。小さな子どもたちへの母語による読み聞かせに興味がある方はp-444@family.kist.ed.jpまでご連絡ください。

セカンダリーSRC

9月に行なわれた最初のミーティングからSRCは学校コミュニティをより良くするために様々なアクティビティに参加してきました。

私達の重要な役割の一つとして学校のマネジメントチームに生徒の提案を書面で提出をしています。11月25日まででSRCは9つの提案を出してきており、いくつかは既に了承を得ています。現在これらの承認を受けた変更などを実行に移しつつ、SRCの生徒と学校アドミニとのコミュニケーションチャンネルとしての役割を果たすために新しい提案も書き上げています。

SRCの行なっている事が直接生徒には伝わっていないという声を参考にして、KISTimesという生徒のコミュニケーションボードをつくりました。この掲示板はカフェテリアの向かいに設置しており、Daily Noticesや、"Weekly Quotes"のセクションやSRCからの情報、世界のニュースなどを載せています。



更に、多くの生徒とスタッフが新しく導入されたチャイムを嫌っていたためSRCは、学校生活に重要な施設に生徒の声を反映させるためにアンケートをとりました。他にSRCが学校コミュニティをより良くするために、SRCのロゴデザインコンテスト、トイレの衛生環境向上、ロッカーセキュリティの向上などを計画しています。

これらの提案書の提出以外にSRCは生徒の日常をより良くするためのイベントを行なってきました。11月28日にSRC主催で行なわれたダンス、Under the Starsや学校運営からの提案を元にSRCも火曜日と木曜日の朝に学校ゲートで生徒が登校してくる際に挨拶を始めました。

まだ今年度が始まってから3ヶ月しか経っていませんが、SRCの活動は順調にっています。これからも生徒を代表してKISTコミュニティ全体が良くなるように努めてまいります。

Kouta (G11B)

カレッジガイダンスニュース

北半球の大学の2014年秋入学出願が9月から始まり、カレッジガイダンスオフィスは今年の12年生や、すでに卒業した生徒の出願のお手伝いで大忙しです。生徒や保護者と一緒に出願大学の最終リストを作成したり、教員に推薦状を依頼したり、学校の成績などの書類を用意し、アメリカの大学のCommon Application オンラインや、イギリスの大学のUCASシステム、をはじめとしたさまざまな方法でアメリカ、カナダ、イギリス、日本など各国の大学に送付しています。すでに早期出願期間に願書を送った生徒はカナダのいくつかの大学から合格通知をもらっています。おめでとうございます！これから、通常の出願期間に出願する生徒のところにも、2月、3月、4月には次々に良い知らせが届くと思います。皆さんのサポートに感謝し、今年も良い結果が出ることを心からお祈りしています。

大学フェアや大学説明会

大学フェアや大学説明会のピークシーズンはほぼ終わりました。KIST内外の各種イベントにたくさんの生徒や保護者が参加され、とてもうれしく思います。これからも年度末にかけて引き続き大学代表者をお招きします。また2014年3月21日(金)には、第二回KIST Spring College Fairを開催する予定です。ぜひお越しください。詳しくは2月の初めにお知らせいたします。

大学出願に関するQ&A

このセクションでは、大学の出願に関して皆さんからよく受けるご質問について、お答えします。卒業後のお子さんの進路選択についてお考えになる際の参考にさせていただけたらと思います。

Q: アメリカや日本などいくつかの国ではIBディプロマは高校卒業証明書としては認められず、SATや大検などの統一試験を受けないといけないと聞きましたか？

A: いいえ。IBディプロマはアメリカや日本を含め世界中ほとんどの国で高等学校教育を修了した大学出願資格として認定されています。ただし、アメリカの多くの大学では出願書類の一部としてSATのスコアの提出を要求されます。近年アメリカの大学でも外国籍の生徒はSATが不要というところも増えています。(たとえばワシントンDCのアメリカン大学、ワシントン州タコマのパシフィックルーセラン大学など)日本の大学の受験の場合、IBのフルディプロマを取得して本校を卒業する生徒は、大検を受ける必要はありません。

Q: わたしは、卒業後も日本で教育を受けたいと思っていますが、英語での授業をしている大学は数に限りがあり、選択肢が少ないと聞いていますが。

A: はい、確かに長い間そうでした。でも最近では日本にある大学でも英語で授業を行う新しいプログラムが増えてきました。たとえば、東京大学はPEAKプログラムという名前ですべての授業を英語で行う2つのコースを開設しました。当校の昨年度卒業生のひとりにはPEAKの環境科学プログラムに合格し、今秋入学しました。もうひとりの卒業生は早稲田大学の理工学部、ほかのふたりは同じく早稲田大学の政経学部のそれぞれ英語プログラムに進学しています。

日本政府が留学生を増やすために各大学に呼びかけた「グローバル30(留学生30万人計画)」に参加している各大学、グローバル30の詳細については: <http://www.uni.international.mext.go.jp/global30/>をご覧ください。

上智大学、早稲田大学、国際基督教大学、明治学院大学、同志社大学、立命館大学、大阪大学などのリベラルアーツ学部など英語プログラムへの出願には通常の大学入学試験を受ける必要はありません。これらの大学への出願はアメリカの大学出願と似ていて基本的には書類審査になり、学校の成績表、IB予想点、エッセイ(志望理由書)、教員の推薦状を送ります。日本の大学にはSATは必要ありません。

Q: わたしは将来、医師になりたいと思っています。KIST卒業後の進路としてどのような選択肢がありますか？

A: 医学教育のシステムは国によって異なります。イギリス、オーストラリア、日本では、医学部教育は大学学部レベルから始まりますので、高校卒業後直接大学の医学部に出願することができます。一方アメリカの場合は、医学教育は大学院レベルから始まりますので、医学部に進むにはまず大学の学部を卒業しなければなりません。イギリスやオーストラリアの大学医学部出願の際には、医学部進学能力試験を受ける必要がある場合もあります。アメリカの医学部出願には統一試験MCATを必ず受けなければなりません。

日本では、現在のところすべての医学部は日本語で授業を行っており、入学試験としてセンター試験と各大学での筆記試験の両方を受験しなければなりません。今年、日本の私立大学医学部ランキング上位校のひとつである順天堂大学医学部が「国際臨床医・研究医枠入学試験」という特別な入試方法を2014年4月入学試験より新たに導入しました。この試験方式でもやはり日本国籍の受験生にはセンター試験を外国籍の受験生には日本留学生試験を課しますが、面接試験や小論文試験なども重視し、今日のグローバル社会で医師となるに相応しい能力を備えているかどうかを判断するそうです。

大学進学についてご質問がおありでした、どうぞご遠慮なく電話またはメールでご連絡ください。

(Mrs) Keiko Okude

College Guidance Counselor

keiko.okude@kist.ed.jp



クロスカントリー

11月15日(金)に開催されたインターハウス・クロスカントリーチャンピオンシップで以下の生徒が各自のカテゴリーで優勝しました。おめでとうございます！



Inter-school Cross Country

Boys

Grade 1

- 1) Killian (G1B)
- 2) Ryo (G1B)
- 3) Arthur (G1A)

Grade 2

- 1) Kaito (G2B)
- 2) Daiki (G2A)
- 3) Ethan (G2B)

Grade 3

- 1) Keanu (G3A)
- 2) Sho (G3A)
- 3) Soma (G3A)

Grade 4

- 1) Kaiser (G4B)
- 2) Ross (G4A)
- 3) Kishore (G4A)

Grade 5

- 1) Den (G5B)
- 2) Jun (G5A)
- 3) Joe (G5B)

Grade 6

- 1) Michael (G6B)
- 2) Kenzo (G6A)
- 3) Tomohisa (G6A)

Grade 7

- 1) Keina (G7A)
- 2) Shin (G7B)
- 3) Kevin (G7A)

Grade 8

- 1) Ke Yi (G8B)
- 2) Hikaru (G8A)
- 3) Moe Min (G8B)

Grade 9

- 1) Haruto (G9B)
- 2) Ken (G9B)
- 3) Hiromasa (G9B)

Grade 10

- 1) Tyson (G10B)
- 2) Liam (G10B)
- 3) Jisang (G10B)

Grade 11

- 1) Maung Wai (G11A)
- 2) Mikio (G11B)

Girls

- 1) Mano (G1A)
- 2) Hana (G1A)
- 3) Lingfei (G1B)

- 1) Homare (G2A)
- 2) Rio (G2B)
- 3) Hina (G2A)

- 1) Sola (G3B)
- 2) Aimi (G3A)
- 3) Elena (G3B)

- 1) Rina F. (G4B)
- 2) Zoe (G4A)
- 3) Se Young (G4B)

- 1) Saki (G5B)
- 2) Sato (G5B)
- 3) Maki (G5B)

- 1) Yi Jen (G6A)
- 2) Emily (G6A)
- 3) Reina (G6A)

- 1) Ayumi (G7B)
- 2) Emiri (G7A)
- 3) Ruiran (G7A)

- 1) Seina (G8A)
- 2) Leia (G8A)
- 3) Riko (G8B)

- 1) Lin (G9B)
- 2) Kotone (G9B)
- 3) Moana (G9A)

- 1) Ayaka (G10B)
- 2) Nino (G10A)
- 3) Lavanya (G10A)

- 1) Mina (G11A)
- 2) Sakura (G11B)



浅草



風鈴の素敵な音、店主の大きな声での挨拶、好奇心旺盛な観光客・・・そうです、私達は活気にあふれた浅草の話をしています。浅草は日本でも伝統的な面と現代の側面をもった珍しい場所です。浅草にはたくさんの着物の店があり、伝統的な日本のせんべい、餅、ユニークなアイスクリームがありました。

10月17日にG7は、日本の信仰と価値観について調査するために浅草に校外学習に行きました。この校外学習ではAmazing Scavenger Huntというゲームをしました。

G7が浅草寺に着いた瞬間からすごいしゃぎようでした。それぞれのグループに分かれてScavenger Huntを開始し、様々な写真を撮り、ミッションをこなしていきました。時間が経ちいくつかのグループが池の周りにいるグループと一緒にになりました。私達は多くの観光客と写真を撮り、観光客、日本人々、店主さんなどにインタビューを行いました。昼食後みんなで小さなグループに分かれて、自分達のリサーチクエストの関する情報集めにいきました。この校外学習を行う事により、私達は日本の信仰と価値観がどのように社会にとって重要なのかを調べる探求プロジェクトを終わらせる事ができました。リサーチを終えた後お土産を買いにいきました。

Krishna and Emiri (G7A)



ボランティア精神

KISTのミッションは国際社会に貢献する、人格的に秀でた有能な若者を育成することです。生徒がスクールミッションの理解力を深め、それに基づいて行動を起こすことが出来るようになる為に、地域のボランティア活動に参加することはとてもいいアイデアだと思います。

KISTを代表し、9月27日のバイクセールに協力して下さった皆様にお礼を申し上げたいと思います。イベントは大成功に終わり、当日は生徒によるタレントショーの様々なパフォーマンスを楽しみながら、みなさんがスナックを美味しく食べていました。今回のバイクセールで集まった9万円の利益は、同時通訳の機材購入に充てられました。イベント成功にむけ協力して下さったみなさん、ありがとうございました。

また、ワイン&チーズのイベントを盛り上げてくださったダンサーのみなさん、どうもありがとうございました。保護者の方々と生徒が同様に、自分たちの特技をスクールコミュニティーと共有できたのは素晴らしいことです。

次回の12月13日のバイクセールも楽しみにして下さい。次回のテーマは、「ウィンターホリデーマーケット」で、これからのウィンターホリデーのお祝いをおかねて、様々な国の焼き菓子やスナックを楽しみましょう。みなさんの参加をお待ちしています。詳細につきましては、後日E-Communicationsにて伝達させていただきます。

改めて、ボランティアの皆様ありがとうございました！



Talent show volunteers

Emiko S., Keun Woo L., Yutaro N., Michael P., Ana Margarita S., Sae Lim K., Emika O., Hamish K., Vasu J., Jiei S., Leo S., Malini W., Sonakshi D., Zoe W., Kiana C., Manaka N.

Students of parents who donated baked items

Kyo O., Fuwa Y., David A., Lisa K., Liwei Z., Hal H., Riu Y., Edward S., Haruka N., Wenhui W., Renzo L., Sumire M.J., Hikaru W., Shota K., Ryo Y., Yusei O., Riku H., Diana S., Nicolas & Alyssa T., Ai M., Haruto & Tsubasa T., Mariko M., Emiko S., Ricky U., Kota Y.H., Mai M., Kemo R., Zoe W., Minagi W., Yuri F., Daichi H., Rei M., Makana F., Vasu J., Rina F., Miyabi K., Daphnee S., Max H., Asami K., Reina & Daiki H., Emiri & Shuntaro K., Taisei H., Qifei H., Hikaru I., Marcus A., Eimi O., Liam S., Mina H., Rikako T., Vidihika K., Rei K., Taisei I., and also to Mr & Mrs Komaki and Mr & Mrs Naito

Wine and cheese party dancers

Parents of Homare K., Hanna I. (and Hanna herself), Sara V., the dancers from Sandii's Hula Studio and the Jawhara Belly Dance Team